

救急超音波講習会

Emergency Ultrasound Workshop

開催日：2015年2月8日(日) 13:30~15:30(受付開始 13:00)

会場：東芝メディカルシステムズ株式会社 首都圏支社

〒104-0051 中央区佃2-1-6 リバーシティM-SQUARE

交通のご案内：

月島駅[6]から徒歩約8分

【参加費】1,500円 (定員:60名)

【対象】原則として救急外来で超音波を使用する機会がある医師

【お申し込み方法】平成27年1月9日(金)よりホームページ(<http://ptix.co/1DrcHZT>)よりチケットを購入ください。定員になり次第、締め切らせて頂きます。

事前受付のお支払いはクレジットカードとコンビニ決済がご利用いただけます。

【問合わせ先】救急超音波講習会 事務局代行(株)コンパス内)

〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目3-11 NCK ビル5F

TEL:03-5840-6131 FAX:03-5840-6130 担当:濱

E-mail:euc@compass-tokyo.jp

主催:Team Ultrasound, PLCC

協賛:東芝メディカルシステムズ株式会社



救急医療には超音波を用いたポイント・オブ・ケアの確率が不可欠

Bedside Emergency Ultrasound Education is in high demand by emergency physicians all over the world. Clinical, focused, point-of-care ultrasound is used daily for prompt and accurate diagnoses, for quickly identifying critical and life-threatening conditions. Moreover, it has been shown to improve patient outcomes when those life-threatening conditions are identified early, ultimately guiding treatment at the bedside. Furthermore, clinical ultrasound has been demonstrated to decrease patient length of stay, improve ED throughput, and improve patient satisfaction. Ultrasound is now considered standard of care at many institutions for procedural guidance, especially for vascular access and needle guidance, decreasing overall complications. The American College of Emergency Physicians has developed and published many guidelines and policy statements, thereby establishing the foundation for the continued growth of Clinical and POC Ultrasound

ベッドサイドで施行する救急超音波のための教育は、世界中の救急医にとって高い需要があります。臨床現場における焦点を絞ったポイント・オブ・ケアの超音波診療は、迅速で正確な診断のためだけではなく、重篤で生命を脅かす病態を遅滞なく認識するために用いられています。それだけではなく、超音波によって生命に関わる病態を早期に同定した場合には、患者の予後を改善することが証明されています。さらに、臨床現場における超音波の利用は、患者の在院時間を短縮し、救急外来の流れを改善し、患者の満足度を向上させることも示されています。いまや超音波の利用は多くの医療機関において、血管確保や穿刺などの手技のガイドやあらゆる合併症を減少させる標準的な診療として捉えられています。米国救急医学会は多くのガイドラインや方針声明を改訂して刊行してきた実績から、臨床現場におけるポイント・オブ・ケアの超音波診療の継続的な発展のための基盤を確立し得たのです。



Course Director :
MacLong Tran

クオリティの高い救急超音波検査の知識と技術を学ぶ絶好のチャンス



座長：
聖マリアンナ医科大学
救急医学
松本純一

救急診療において短時間のうちに質の高い診療を行い、適切な時間内に安全に患者のマネジメントを行うことは全ての医師が目指すところだろうと思います。MDCTの導入が進み、正確な解剖・病態生理学的情報が入手できるようになることで救急診療におけるCTの位置づけが高まっているのは事実であり、「病の沙汰も画像次第」といった側面もなくはありません。「良い治療はよい診断から、良い診断はよい検査から」という観点から言えば、CTを適切に活用することは救急診療の質向上に大いに役立つでしょう。しかし、そもそも、「良い検査は、よい診察から」なのであり、短時間のうちに適切に患者から直接情報を得ることが、診療の最も重要なプロセスであることに疑いの余地はありません。そして、質の高い診療を実践する上で欠かせないのが超音波検査です。実際、米国救急医学会では超音波検査は救急医が習得すべき minimum requirement に位置づけられており、これを到達させるべく標準化された質の高い教育が実施されています。

日本ではこのようなプログラムは未だに確立されていないため、アメリカより招聘した講師から教育プログラムを学習する機会を企画しました。救急外来から集中治療も含めた救急診療の中で広く活用できる救急超音波検査の significance を実感していただき、日々の診療で実践していただければと思いますので、ぜひ多数の方のご参加をお待ちいたしております。

運営スタッフ

- 講師： MacLong Tran,MD
[The University of Texas Southwestern Medical Center at Dallas Section on Emergency Ultrasound, Department of Emergency Medicine]
- 座長： 松本純一
[聖マリアンナ医科大学 救急医学・放射線医学]
- スライド翻訳： 児玉貴光
[The University of Texas Southwestern Medical Center at Dallas Section on EMS, Disaster Medicine and Homeland Security, Department of Emergency Medicine]
- スライド監訳： 太田智行
[東京慈恵会医科大学病院 放射線科]

講演会内容

米国における救急超音波教育のあり方について概要を解説し、その後に模擬患者を用いて診療風景（シミュレーション）を供覧いたします。

講演会タイムテーブル

13：30～13：40	座長挨拶・講師紹介
13：40～14：30	講演（米国における救急超音波教育のあり方）
14：30～14：40	休憩
14：40～15：10	シミュレーション供覧
15：10～15：25	質疑応答
15：25～15：30	座長挨拶
15：30～	アンケート回収（解散）

<注意事項>

- ・講義の公用言語は**英語**になります。日本語訳したハンドアウトを配布する予定です。
- ・受講生には、講師から修了証が発行されます。
- ・コースの前後にアンケートを行う予定です。アンケートの提出が修了発行の条件となります。
なお、アンケートの内容は、無記名化の上でデータが各種学会・論文などで使用されることがあることをご了承ください。同意されない方は事前にご申告をお願いいたします。
- ・コースの最中に写真を撮影する場合があります。写真については、各種学会・論文などで使用されることがあることをご了承ください。同意されない方は事前にご申告をお願いいたします。
- ・講義の撮影や録画はご遠慮ください。
- ・キャンセルポリシー
受講決定後のキャンセル(特にご連絡なき場合)は、受講料は返却致しません。